

第4回 和歌山市立学校適正規模適正配置調査検討委員会 会議録概要

《日時》 平成21年1月29日(木)午後4時～午後5時30分

《場所》 勤労者総合センター 4階 会議室

《出席者》和歌山市立学校適正規模適正配置調査検討委員会委員(12人)敬称略

会長 矢萩喜孝(和歌山大学教育学部 教授)

副会長 杉山清一(和歌山市自治会連絡協議会 会長)

委員 足立基浩(和歌山大学経済学部 准教授)

神崎務(楠見小学校 教諭)

貴志節子(前広瀬小学校 校長)

金原佐知子(伏虎中学校 教諭)

坂下重幸(和歌山市小学校PTA連合会 会長)

田中志保(弁護士)

鳥居賀柄子(宮前小学校 校長)

野間弓子(前加太中学校 校長)

矢野幸茂(和歌山市中学校PTA連合会 会長)

米田哲朗(河西中学校 校長)

事務局(11人)

教育局長 樫原義信

教育総務部長 原一起、学校教育部長 澤井勉

教育総務課長 川口雅広、教育施設課長 坂上賢一郎

学校教育課長 三木勇次、教職員課長 楠井和樹

教育総務課副課長 坂東貞次、教育総務課専門教育監補 楠見健

教育政策班長 田中利幸、教育総務課企画員 中村智裕

《会議次第》

(1)開会

(2)配布資料確認

配布資料

資料1・・・中間まとめ(案)

資料2・・・中核市の適正規模学級数についての基本的な考え方(集計表)

(3)前回の会議内容確認

(4)議事

1.中間まとめについて

(1)前文(はじめに)

(2)現状

(3)目的、必要性

(4)基本的な考え方

(5)今後の予定

2.その他

(5)閉会

《会議内容》

1. 前回の会議内容確認
第3回会議録と会議録の概要が承認された。
2. 事務局からの説明
前回の協議内容に関する資料（中核市の適正規模学級数についての基本的な考え方）について
 - ・学校適正規模の上限を24学級としている中核市が多い旨、報告があった。中間まとめ（案）について、項目ごとに説明をした。
3. 中間まとめ（案）についての主な意見
 - ・小規模校のデメリットとして、「教職員が児童生徒に対して過保護になりすぎる」との記述があるが、「過保護になりすぎる場合がある」という表現の方が的確である。
 - ・学校規模によるメリット・デメリットが列挙されているが、何がメリットかデメリットかは様々な場合があるので、各項目の並べ方に意図を持たせたというよりも、単に羅列したものと捉えたほうがよい。
 - ・適正規模化・適正配置の手法として5項目挙げているが、これらは、一般的に考えられる手法として捉えるべきである。
 - ・具体的にどの方法を採用かは、学校の事情を考慮するとともに、保護者や地域の方々の理解が得られるように検討する必要がある。
 - ・前回の会議で指摘された学校選択制の弊害について、適正規模化・適正配置を行う上での留意点として記述しておくべきではないか。

[事務局から] 特別認定制度は、適正規模外の学校を存続させるための一手法であり、全ての学校に選択制を導入することを想定したものではない。小中連携や小中一貫教育も、小規模校を存続させながら教育効果を向上させる手法である。適正規模化は、教育委員会主導ではなく、保護者や地域の方々から声があがるのが望ましい。指摘いただいた点については、修正案に盛り込みたい。

 - ・学校規模によるメリット・デメリットがあることを、学校や保護者、地域の方々に知らせていくことが必要ではないか。また、教育委員会は説明の機会を積極的に設けていくべきである。

[事務局から] 説明の機会を十分に設け、共通理解を得た上で、合意形成を図っていく。

 - ・適正規模化・適正配置の実施期間は？また、市長期総合計画との関連はどうか。

[事務局から] 学校の適正規模化・適正配置は、まちづくりの観点と関わることも多く、教育委員会だけでなく市全体で考えなければならない。しかし、市長期総合計画では、今後5年間を見通した基本計画と実施計画が策定され、計画の進捗状況が評価されるが、学校の適正規模化は、そのように実施期間を区切って進めることは難しい問題であり、また、保護者や地域の方々の理解と協力を得ながら進めていかなければならないと考えている。
4. 中間まとめ（案）について、若干の修正部分は事務局に一任とした上で、承諾された。